

韓国・浦項

鉄とバラきずな結ぶ

国際花火祭りルポ

韓国慶尚北道の東海岸にある浦項市。福山市との親善友好都市提携は昨年30周年を迎えた。それぞれの国を代表する製鉄所があり、市の花はともにバラなど似た顔を持つ両市。浦項国際花火祭り(7月下旬)に合わせて訪れた浦項市で、鉄とバラが結ぶきずなに触れた。(伊藤敬子)

保命酒みそやイ草PR



祭りのテーマは「火と光」。メインの24日は日本、カナダ、ポーランド、韓国の花火師が競演し、8万発以上の大輪が夜空に咲いた。会場は製鋼会社ポスコの製鉄所を対岸に望む河川敷。次々と繰り出される花火は音楽と連動し、歓声が何度もわき起こった。

河川敷に並ぶ、飲食や物販のブース。その中に、福山市の観光物産をPRする「ばらグッズふくやまフレンズ」「備後特産品研究会」のメンバーも。保命酒みそ、イ草コースター、ばらまんじゅうなど39品目を来場者に販売



カラフルにライトアップしたポスコの製鉄所を背景に、大輪の花が夜空を埋めた浦項国際花火祭り

した。戦争で荒廃した町に植え、平和を願う心を福山市民が託したバラ。浦項市民の関心も高く、売り切れる食品もあった。フレンズの正田洋子会長(57)は「福山の知名度は予想以上に高い。両市が培った長年の交流の成果」と初出展の手応えを語った。

花火が上がる前、福山商工会議所や福山市の経済訪問団メンバーは、福山市民とともにパレードに参加した。お土産として持参したのは、折り紙で作った「折りばら」。沿道から声援を送る観客に笑顔で手渡ししながら約2キロを歩いた。「パレードは福山ばら祭を参考に始まった」と現地で聞いた。

祭り資金にも人的にも支えるポスコは、日韓基本条約に基づいて日本から支払われた対日請求権資金を活用し、1973年に完成した韓国初の一貫製鉄所だ。日本鋼管(現JFEスチール)をはじめ日本企業が技術支援し、福山からも多くの鉄鋼マンが海を渡った。製鉄所内のミュージアムでは、鉄をめぐる日韓協力の歩みを流ちょうな日本語で伝えていた。



⑤パレードに参加した福山商工会議所などの経済訪問団メンバー。沿道を埋める市民に「FUKUYAMA」をアピールした

⑥福山の特産品やばらグッズを販売するブース。平和への祈りを込めた「折りばら」を来場者にプレゼントした

(いずれも7月24日)

鉄とバラは、復興のために流した汗と平和を願う心のシンボルだ。「歴史に学び、未来を築く」。両市民が手を携え、さまざまな壁を越え、交流の輪を広げようとしている。



福山